

2024年3月期 第1四半期 決算説明会 質疑応答要旨

《1Q実績について》

Q1：1Q着地をどのように見ているか？社内計画に対してどの程度良かったのか教えてほしい。

A1：1Qは、特に国内を中心として、半導体影響がほぼなくなってきたことで、高い生産レベルに回復し、社内計画よりも売上、利益ともに大幅に改善しました。それに伴い、日本やアメリカで人財確保の問題は続きましたが、比較的安定した生産ができ、ロスは最小化できました。

Q2：1Qで一過性の利益押し上げ要因がなかったか、プレス、バルブ、それぞれの事業で教えてほしい。

A2：プレス、バルブともに一過性の利益や経費は特にありません。

《通期予想について》

Q3：年間計画の修正について、トヨタの国内生産台数前提をどのように変えているのか教えてほしい。

A3：当社の売上が大きい地域は日本と米国と中国ですが、前回予想時と比較して、日本は10%弱の生産台数増、米国は5%強の増加を想定しております。中国については前回と比較して5%程度の減少を想定しており、全体では5%弱の増加を想定しております。

Q4：通期の売上高は前回と比較して50億円増額しているが、プレス鋼材の有償受給化の影響が、期初の想定に対してマイナス方向で50億円程度増えているので、実質物量100億円の増額という理解で良いか？

A4：プレス鋼材の有償受給化については、前回予想に比べ年間で50億円程度、マイナス影響が大きくなっております。今回の通期予想修正で売上が50億円増加している内訳は、販売物量で70億円強のプラス、有償受給の関係で50億円強のマイナス、為替換算で20億円程度のプラスなどでトータル50億円のプラスになっております。

Q5：通期の計画について、今の前提であれば、利益はもう少し積み上がってもいいのではないかと思う。まだ先行き不透明感もあり、堅めなのか、考え方を教えてほしい。

A5：今回の修正は、主にこの1Qで期初計画を上回った部分を通期で修正しております。

Q6：1Qに対して2Qが減益となっている要因を教えてほしい。

A6：東大垣工場の本格稼働は下期からになりますが、2Qから一部稼働を始めるため、稼働開始に伴う準備として、経費などを見込んでおります。為替は前回と同様に2Q以降130円を前提としていますので、1Qと比較すると、その分の売上・利益はマイナスになります。その他の大きな変動要因はありません。

Q7：トヨタ台数や為替などの外部環境変化以外に、収益性の改善や価格転嫁など、自助努力でのアップサイドはどれくらい望めるのか教えてほしい。

A7：アメリカのテネシー拠点は人財の流動性が高い地域でしたが、組織が安定してきたことで足元は落ち着いて生産できており、改善が少しずつ成果として表れております。今年度は当拠点で大きなモデルチェンジはなく、人財育成や人員の定着など、改善に注力できると考えており、これは今後のプラス要因になっていくと考えております。

《政策保有について》

Q8：政策保有の動きについて教えてほしい。トヨタは前回の決算説明会で持合解消を検討すると話しており、グループ間で持合い、株の持ち方をどうすべきか、議論が動いているように見える。

A8：政策保有株式の縮減については、当社も計画に従い進めております。

《電動化の進展について》

Q9：トヨタがギガキャスト採用も発表される中で、グループ内でのビジネスの割り振りの仕方、今後 BEV キャンパニーを中心にどう変わっていき、それが御社のビジネスにどう影響を及ぼしそうなのか、何か見通しあれば紹介してほしい。

A9：当社はこれまで、カーメーカー向けのアプローチを中心にしておりましたが、今後は部品のモジュール化進展や、主要基幹部品の Tier1 メーカー、メガサプライヤーへの移管が今まで以上に進んでいくと考えております。したがって当社の取り組みとして、Tier1 メーカーに樹脂やバルブなどのコア技術を活かした製品の拡販を行っておりますので、アプローチするお客さんの数は増えております。また、カーメーカーや、メガサプライヤーから引き合いが来る案件が増えており、バッテリーEV の波が本格的にきているというのを実感しております。当社も、バッテリーEV 向けの製品開発を行っておりますので、これは引き続き力を入れて進めてまいります。また、トヨタの BEV ファクトリーについては、当社としてもバッテリーEV に向けて採用いただきたい製品や、より深く入っていきたい領域となりますので、情報を取りながら、積極的に動いていきたいと考えております。ギガキャストの採用については、主にフロントとリアのアンダーボディ部分を対象としており、当社は受注が少ない部分ですので、事業に対する直接的な影響は少ないと分析しております。バッテリーEV が進展しても、プレス、樹脂、バルブ、TPMS など当社主要製品への影響は、ほとんどありません。むしろ、当社としては電動化を追い風と捉えて技術開発を進め、お客様に採用いただけるように取り組んでおります。

以上